

# 有事の協力態勢は

岡山

## AMDAフォーラム 南海トラフ備え

南海トラフ地震への  
備えをテーマとした国  
際医療ボランティア・  
AMDA（本部・岡山  
市北区伊福町）の「被

災地間相互交流公開フ  
ォーラム」が1日、岡  
山市であり、東日本大

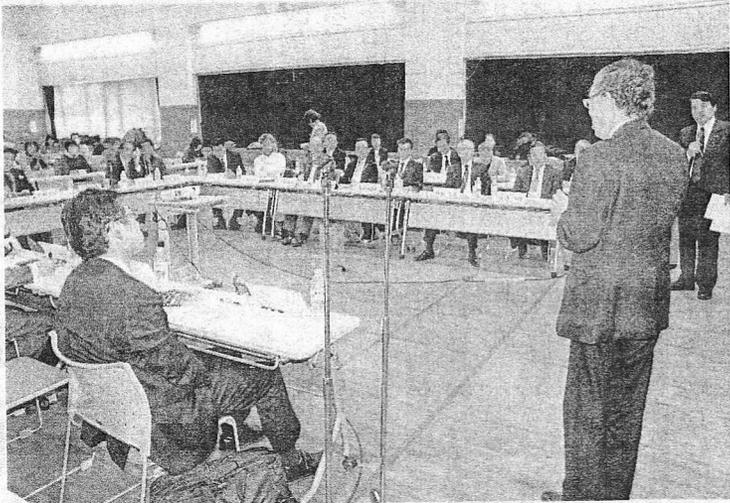
震災の被災者や自治体  
関係者らが有事の協力

態勢や被災地間の情報  
共有について意見交換  
した。

岩手、宮城、福島県  
の復興商店街の代表ら  
6人は被災者の立場か  
ら避難所運営などにつ  
いて発表。「必要な物

資や情報がきちんと避  
難所に届く仕組みが不  
可欠」「被災地間の情  
報交換は復興の連携に  
つながる」とした。

国土交通省の担当者  
や高知、徳島県の自治  
体職員は南海トラフ地  
震の大規模被害を想定  
した対応について「防  
波堤の延伸や避難訓練  
実施などハード・ソフ  
ト両面を充実させてい  
る」「防災関係者を交  
え、医療救護計画を見  
直し中」と説明した。



南海トラフ地震への備えについて話し合う参加者

AMDAグループの  
菅波茂代表は地震発生  
時に高知、徳島県内の  
避難所を支援する独自  
プログラムを紹介。「東  
北の皆さんに避難所コ  
ーディネーターとして  
参画してほしい」と求  
めると、南三陸さんさ  
ん商店街（宮城県南三  
陸町）の三浦洋昭副組  
合長は「恩返しに協力  
したい」と述べた。

フォーラムは昨年に  
続き2回目。関係者や  
聴講の市民ら約110  
人が参加した。

（平田桂三）